

## 令和2年度岐阜県がん診療連携拠点病院協議会議事録

日 時：令和3年3月1日（月）13：30～14：20

場 所：医学部本館1階 大会議室から連携施設とオンライン形式にて開催

出席者：県内8拠点病院（県総合・岐阜市民・大垣市民・木沢記念・中濃厚生

県立多治見・高山赤十字・岐大）の代表

岐阜県健康福祉部保健医療課 堀次長 森主幹 上口主事

岐阜県医師会・三輪常務理事

岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会 永田委員長

会議に先立ち、吉田協議会会長 から挨拶があった。

### 報告事項

#### 1. 各専門部会からの報告

各専門部会長、資料により今年度の活動実績等について報告があった。

##### (1) 連携パス専門部会

- ・岐阜県がん診療連携拠点病院協議会 連携パス専門部会開催報告
- ・連携パス実務者ワーキンググループ コーディネーターオンライン情報交換会開催報告

##### (2) 緩和医療専門部会

- ・都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会参加報告
- ・岐阜県がん診療連携拠点病院協議会 緩和医療専門部会開催報告

##### (3) がん情報専門部会

- ・都道府県がん診療連携拠点病院協議会 がん登録部会参加報告
- ・岐阜県がん診療連携拠点病院協議会 がん情報専門部会開催報告

##### (4) 患者相談専門部会

- ・都道府県がん診療連携拠点病院協議会 情報提供・相談支援部会参加報告
- ・岐阜県がん診療連携拠点病院協議会患者相談専門部会開催報告
- ・患者相談専門部会ワーキンググループ開催報告
- ・相談実務者研修会開催報告

##### (5) 教育研修専門部会

- ・岐阜県がん診療連携拠点病院協議会教育研修専門部会 がん看護専門部会ワーキング報

告

- ・がん情報ネットワーク多地点合同カンファレンスプログラム委員会報告
- ・多地点テレビカンファレンス開催報告

## 2. 第13回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会報告

- ・厚生労働省からの連絡・伝達事項
- ・がん登録部会・情報提供・相談支援部会・緩和ケア部会からの報告
- ・新型コロナウイルス感染症流行下での都道府県における活動報告（鳥取県・京都府）  
がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針は4年に1度の改訂で、今回は2022年夏頃となることから今年から開始される議論について動向を注視し、情報共有して行くことの説明があった。

## 3. 岐阜県からの報告

### (1) がん診療連携拠点病院の指定状況について

中濃厚生病院は、指定要件充足状況の7項目をすべて満たしていること、中濃圏域における機能分化（受診者の地域やがん種別の診療実績・専門医療）ができていることから、新規指定を受けたことの説明があった。

また、大垣市民病院が高度型の指定を受けたことについては、高度型指定要件の充足状況における望ましい要件を複数満たし、都道府県がん診療連携拠点病院と同等程度の診療実績を有している等の実績により推薦された経緯について説明があった。

### (2) 新型コロナウイルス感染症の流行下におけるがん診療連携拠点病院等の指定要件の留意事項について

令和3年2月9日に発出された事務連絡では新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、がん診療連携拠点病院として、柔軟な対応をしながらがん医療等の提供に取り組むよう求められており、がん診療のための受診を控えるべきものではない等の周知啓発を行うことについて協力依頼があった。

また、指定要件である「緩和ケア研修会」の開催についての取り扱いが示されたことについて説明があった。

## 4. 協議事項

### (1) 新型コロナウイルス感染症の発生による医療機関の影響について

各拠点病院とコロナ禍における患者の動向等について、情報交換を行った。

#### [岐阜大学病院]

患者の受診については、4月から6月は減少、10月から例年通りの状況に戻りつつあるが、全体として前年度比で約10%程度の減少、受診を控えたことによって進行がんが増えている印象がある。

#### [岐阜県総合医療センター]

がん患者は若干減っているが、大きな手術は制限していない。全体として、従来の状況には戻っていない。

[岐阜市民病院]

がん手術は受診控えのため減少し、進行がんが増えている。進行がんが増加したことにより、外来化学療法、緩和ケアの実数が増加している。がん患者がコロナに感染した場合もコロナの治療が優先であるが、がんの治療が遅滞しないよう対応している。

[大垣市民病院]

外来、手術数は若干減少しているが、がん患者の手術数や化学療法は横ばいの状況である。

[木沢記念病院]

院内クラスター発生について、感染経路・拡大経路についての疫学調査は現在クラスター対策班により行われているが原因は確定していない。現時点での院内解析ではあるが、感染が多く発生した病棟においては酸素投与によるエアロゾルの発生を増強した可能性があること、また、病棟の横断的移動（転棟転床）が拡大の一因と考えている。近隣の医療機関に患者受け入れをしていただけたことにより院内の調整をすることができた。

[中濃厚生病院]

がん治療連携計画策定病院として、地域連携パスの活用を進めていくため、12月に地域に周知した。また、がんのハイリスクの患者を紹介しやすいような体制を整備しているところである。

[県立多治見病院]

患者数の変化として、前年度比の5～6%減、外科・乳腺外科・婦人科・消化器内科に減少が見られたが、血液内科では年間通して増加、放射線治療には変化はない。

[高山赤十字病院]

第2波まで影響はほとんどなく、地域でのクラスター発生もがん患者への影響はなし、検診を中止したことによるがん患者への影響が多少あった。

以上